◯名数　2013.08.27現在（2018-08-24増補訂正）

名数は、それぞれ決められた数がある。天地は2。天地人は名数3。琴棋書画は名数4または名数3（「書画」を一つとすると名数は3）。その他...　百人一首は名数100。 外題の名数から、内題の総数を推定できる。外題に名数を含まない作品は、原則として総数が分からない。

\*1997酒井 雁高／浮世絵学、参照

1933読史備要、東京大学史料編纂所

1966岡山泰四／名数一覧／読史総覧、人物往来社

1974朝倉治彦ほか／日本名数辞典、東京堂

1980川越泰博／中国名数辞典、国書刊行会

2010市川景／和漢名数辞典、木耳社

3

三夕（さんせき）

・西行　心なき　身にも　あはれは知られけり　鴫立沢の　秋の夕ぐれ

・寂蓮　さびしさは　その色としも　なかりけり　槇たつ山の　秋の夕ぐれ

・定家　見わたせば　花も紅葉も　なかりけり　浦の苫屋の　秋の夕ぐれ

三才　天　地　人

三光　日　月　星

四季\*　・雪　月　花　また月　雪　花

4

花鳥風月　・花　鳥　風　月

四花　・梅　菊　水仙　蝋梅

四季　・春　夏　秋　冬

四季花　・寒菊　山茶　芍薬　躑躅（つつじ）

四君子　・蘭　竹　梅　菊

四藝　・琴　碁（棋）　書　画　\*琴　碁（棋）書画（書画が一緒になり、名数が三）

四性（四生）・胎生（人）卵生（鳥）湿生（蛙）化生（蝶）

四天王（仏教）　・持国天（東）　増長天（南）　広目天（西）　多聞天\*（北） \*毘沙門天とも

四天王（源頼光）・碓井貞光　卜部季武　坂田金時　渡邉綱

四方　・東（トン）　南（ナン）　西（シャア）　北（ペイ）

\*四獣　・青龍（東）　朱雀（南）　白虎（西）　玄武（北）

文房四宝　・筆　墨　硯　紙

5

五行　・木　火　土　金　水

五常　・仁　義　礼　智　信

五色　・赤　青　黄　黒　白

五節句　・正月七日（じんじつ）　三月三日（上巳、じょうし、雛）五月五日（端午）七月七日（七夕）九月九日（重陽、ちょうよう、菊）

五人男　・赤星重三（じゅうぞう）忠信利平　南郷力丸　日本駄右衛門　弁天小僧

6

六歌仙

・在原業平　月や　あらぬ　春や昔のはる…

・小野小町　色みえて　うつろふものは　…

・大伴黒主　かがみ山　いざたちよりて…

・喜撰法師　我がいほは　都のたつみ…

・僧正遍照　はちす葉に　にごりて…

・文屋康秀　ふくからに　秋の草木の…

六藝（周代）・礼　楽　射　御（ぎょ）書　数

六性　・豕　犬　牛　馬　鶏　羊

六玉川（地名）・近江（野路、萩）　紀伊（高野）　摂津（擣衣、砧）　武藏（調布）　陸奥（千鳥、野田）山城（井手）

六玉川　・井手　高野　千鳥　調布　擣衣（とうい）萩

7

七賢人　・王戎　稽康（けいこう）　阮咸（げんかん）　阮藉（げんせき）　山濤　　向秀　劉伶（りゅうれい）

七小町（里俗）　・あふむ　雨乞　かよひ　清水（しみず）　関寺　草紙洗　そとバ

七福神　・恵比寿　寿老人　大黒天　毘沙門天　福禄寿　弁才天　布袋

8

飲中八仙　・加知章　雀宗之　汝陽圭　焦遂　蘇晋　張旭　李太白　李適之

近江八景（五十音）

・粟津晴嵐　石山秋月　堅田落雁　唐崎夜雨　瀬田夕照　比良暮雪　三井晩鐘　矢橋帰帆

・帰帆　秋月　晴嵐　夕照　晩鐘　暮雪　夜雨　落雁

座敷八景（春信）・あんとう　あふき　鏡台　琴路　台子　手拭かけ　とけひ　ぬり桶

瀟湘八景（しょうしょう）

・煙寺晩鐘　遠浦帰帆　漁村夕照　江天暮雪　山市晴嵐　瀟湘夜雨　洞庭秋月　平沙落雁

八卦（はっけい）

・乾けん（天）兌だ（沢）離り（火）震しん（雷）巽そん（風）坎かん（水）艮ごん（山）坤こん（地）

八仙（はっせん）（中国）

何仙姑（かせんこ）（蓮花）　韓湘子（かんしょうし）（（竹笛）　漢鍾離（かんしょうり）（蕉扇）　曹國舅（そうこっきゅう）（玉板）　張果老（ちょうかろう）（魚鼓）　　藍采和（らんさいわ）（花筐）　李鉄拐（りてっかい）（瓢箪）　呂洞賓（りょどうひん）（宝剣）

10

十干（じっかん）・[甲](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%94%B2)（コウ、きのえ）[乙](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B9%99)（オツ、きのと）　[丙](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%99)（ヘイ、ひのえ）

[丁](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%81)（テイ、ひのと）[戊](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%88%8A)（ぼ、つちのえ）[己](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B7%B1)（キ、つちのと）　[庚](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BA%9A)（コウ、かのえ）[辛](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%BE%9B)（ジン、かのと）[壬](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A3%AC)（ジン、みずのえ）[癸](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%99%B8)（キ、みずのと）

12

十二支（じゅうにし）・子（シ、ね）　丑（チュウ、うし）　寅（イン、とら）　卯（ボウ、う）　辰（シン、たつ）　巳（シ、み）　午（ゴ、うま）　未（ビ、ひつじ）　申（シン、さる）　酉（ユウ、とり）　戌（ジュツ、いぬ）　亥（ガイ、い）

十二直（じゅうにちょく）・建(たつ)　除(のぞく)　満(みつ)　平(たいら)　定(さだん)　執(とる)　破(やぶる)　危( あやう)　成(なる)　収(おさん)　開(ひらく)　閉(とず)

16

・十六羅漢　阿氏多([あした](http://kotobank.jp/word/%E3%81%82%E3%81%97%E3%81%9F))、因掲陀(いんかだ)　、迦諾迦伐蹉(かなかばしゃ)、迦諾迦跋釐堕闍(かなかばりだしゃ)、迦理迦(かりか)、戍博迦(じゅはか)、蘇頻陀(そびんだ)、注荼半迦(ちゅうだはんだか)、那伽犀那(なかさいな)、諾矩羅(なくら)、伐闍羅弗多羅(ばじゃらふつたら)、跋陀羅(ばだら)、伐那婆斯(ばなばし)、半托迦(はんだか)、賓度羅跋羅堕闍(ひんどらばらだじゃ)、羅怙羅(らこら)

18

十八大通（十八は概数）　・伊勢屋珉理、大口屋曉雨、大口屋金翠、大口屋稲有、近江屋景舎、桂川甫周、下野屋祇蘭、大黒屋秀民、樽屋万山、平野屋魚交、村田屋帆船、松阪屋左達、大和屋文魚

十八番（歌舞伎）・外郎売（うりろううり）　嫐（うわなり）押戻（おしもどし）景清（かげきよ）鎌髭（かまひげ）関羽（かんう）勧進帳（かんじんちょう）解脱（げだつ）毛抜（けぬき）暫（しばらく）蛇柳（じゃやなぎ）助六（すけろく）象引（ぞうひき）七つ面（ななつおもて）鳴神（なるかみ）不動（ふどう）不破（ふわ）矢の根（やのね）

24　二十四孝

1. 剡子（えんし）　02　黄香（こうきょう）　03　[王祥](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%8E%8B%E7%A5%A5)（おうしょう）　04　王裒（おうほう）

05　郭巨（かっきょ）　06　漢文帝（ぶんてい）　07　姜詩（きょうし）　08　江革（こうかく）

09　呉猛（ごもう）　　10　蔡順（さいじゅん）　11　山谷（さんこく）＝黄廷堅（こうていけん）

12　朱壽昌（しゅじゅしょう）　13　虞[舜](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%88%9C)（ぐしゅん）　14　[曾参](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9B%BE%E5%AD%90)（そしん）　　15　張孝兄弟（ちょうこう）　16　丁蘭（ていらん）　　17　董永（とうえい）　18　唐夫人（とうふじん）

19　[閔子騫](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%96%94%E5%AD%90%E9%A8%AB)（びんしけん）　　20　[孟宗](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AD%9F%E5%AE%97)（もうそう）　21　庾黔婁（ゆきんろう、ゆけんろう）

22　楊香（ようきょう）　23　[陸績](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%99%B8%E7%B8%BE)（りくせき）　24　老莱子（ろうらいし）

**仲由（ちゅうゆう）　？**田眞兄弟（でんしん）？

二十四節気　・立春　雨水　啓蟄（けいちつ）春分　清明　穀雨　立夏　小雨　芒種　夏至　小暑　大暑　立秋　処暑　白露　秋分　寒露　霜降　立冬　小雪　大雪　冬至　小寒　大寒

36

冨嶽三十六景（北齋）永壽堂　全46（36+追加10）\*「ふじ…」と読むが一般に「ふがく…」と呼ぶ。

1、青山圓座枩　2、江都駿河町三井見世略圖　3、江戸日本橋

4、御厩川岸より両國橋夕陽見　5、隠田の水車　6、上總ノ海路

7、神奈川沖浪裏　8、凱風快晴　9、礫川雪ノ旦　10、甲州伊沢曉

11、甲州犬目峠　12、甲州石班澤　13、甲州三坂水面　14、甲州三嶌越

15、五百らかん寺さゞゐどう　16、山下白雨　17、下目黒　18、諸人登山

19、信州諏訪湖　20、常州牛堀　21、隅田川関屋の里　22、駿州江尻

23、駿州大野新田　24、駿州片倉茶園ノ不二　25、從千住花街眺望ノ不二

26、相州梅澤左　27、相州江の嶌　28、相州七里濱　29、相州仲原

30、相州箱根湖水　31、東海道金谷ノ不二　32、東海道品川御殿山ノ不二

33、東海道江尻田子の浦略圖　34、東海道程ケ谷　35、東海道吉田

36、東都浅艸本願寺　37、東都駿臺　38、遠江山中　39、登戸浦

40、尾州不二見原　41、深川万年橋　42、武州千住　43、武州玉川

44、武陽佃嶌　45、本所立川　46、身延川裏不二

富士三十六景（廣重）全36　1858（安政5）廣重の遺稿を開板したもの。

0、目録、おなじく…　1、伊豆の山中　2、伊勢二見か浦　3、甲斐犬目峠

4、甲斐大月の原　5、甲斐御坂越　6、上総鹿楚山　7、上総黒戸の浦

8、鴻之臺とね川　9、相模江之島入口　10、さがミ川　11、相模七里か濱

12、信濃塩尻峠　13、下総小金原　14、信州諏訪之湖　15、駿河薩タの海上

16、駿河三保之松原　17、駿遠大井川　18、相州三浦之海上

19、雑司がや不二見茶や　20、東海堂左り不二　21、東都飛鳥山

22、東都一石ばし　23、東都御茶の水　24、東都数寄屋河岸25、東都隅田堤

26、東都駿河町27、東都佃沖　28、東都目黒夕日か岡　29、東都兩ごく

30、はこねの湖すい　31、房州保田海岸　32、武藏小金井　33、武藏越かや在

34、武藏多満川　35、武藏野毛横はま　36、武藏本牧のはな

三十六歌仙（藤原公任、きんとう）（966-1041）

\*1010s公任撰。人麻呂、貫之、躬恒、伊勢、兼盛、中務6人は各10首、残りの歌人30人は各3首。60+90＝150首。（1220s加茂家、京都下鴨神社）（後京極良經筆、藤原信實絵、佐竹本絵巻）

1柿本人麻呂（かきのもとのひとまろ）ほのぼのとあかしの浦のあさぎりに島がくれゆく舟をしぞおもふ

2凡河内躬恒（おおしこうちのみつね）いづくとも春のひかりはわかんくにまだみ吉野の山は雪ふる

3大伴家持（おおとものやかもち）さをしかの朝たつ小野の秋萩に玉と見るまでおける白露

4在原業平（ありわらのなりひら）世の中にたえて櫻のなかりせば春のこおろはのどけからまし

5素性法師（そせいほうし）いま来むといひしばかりの長月の有明の月を待ちいでつるかな

6猿丸太夫（さるまるだゆう）をちこちのたつきもしらぬやま中におぼつかなくも呼子鳥かな

7藤原兼輔（ふじわらのかねすけ）人の親のこころはやみにあらねども子を思ふ道にまよひぬるかな

8藤原敦忠（ふじわらのあつただ）あひみてののちのこころにくらぶれば昔はものを思はざりけり

9源公忠（みなもとのきんただ）行きやらで山路くらしつほととぎすいまひとこゑの聞かまほしさに

10齋宮女御（さいぐうのにょうご）琴の緒とに峯の松風かよふらしいづれの緒よりしらべそめけむ

11源宗于（みなもとのむねゆき）ときはなる松のみどりも春くればいまひとしほの色まさりけり

12藤原敏之（ふじわらのとしゆき）秋きぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

13藤原清正（ふじわらのきよただ）子の日しにしめつる野辺のひめこ松引かでや千代のかげを待たまし

14藤原興風（ふじわらのおきかぜ）たれをかも知る人にせむ高砂の松も昔の友ならなくに

15坂上是則（さかのうえのこれのり）みいよしのの山の白雪つもるらしふるさとさむくなりまさりゆく

16小大君（こおおぎみ）岩橋の夜の契りも絶えぬべい明くるわびしき葛城の神

17大中臣能宣（おおなかとみのよしのぶ）千とせまでかぎれる松もけふよりはきみに引かれてよろづよや経む

18平兼盛（たいらのかねもり）かぞふればわが身に積るとしつきを送りむかふと何いそぐらん

18＋住吉大明神（すみよし） 夜や寒き衣やうすきかたそぎの行きあはぬ間より霜や置くらむ

19紀貫之（きのつらゆき）さくらちる木の下風は寒からで空にしられぬ雪ぞ降りける

20伊勢（いせ）三輪の山いかに待ち見む年経ともたづぬる人もあらじと思へば

21山辺赤人（やまべのあかひと）わかの浦に潮みちくればかたをなみ葦辺をさしてたづ鳴きわたる

22僧正遍照（そうじょうへんじょう） すゑの露もとのしづくや世の中のおくれ先だつためしなるらん

23紀友則（きのとものり）夕されば佐保のかはらの川霧に友まよはする千鳥なくなり

24小野小町（おののこまち）いろ見えでうつろふものは世の中のこころのはなにぞありける

25藤原朝忠（ふじわらのあさただ）逢ふことの絶えてしなくばなかなかに人をも身をもうらみざらまし

26藤原高光（ふじわらのたかみつ）かくばかり経がたく見ゆる世の中にうらやましくも澄める月かな

27壬生忠岑（みぶのただみね）春立つといふばかりにやみよしのの山もかすみてけさは見ゆらん

28大中臣頼基（おおなかとみのよりもと）筑波山いとどしげきに紅葉して道みえぬまで落ちやしぬらん

29源重之（みなもとのしげゆき）吉野山峯のしら雪いつ消えてけさは霞のたちかはるらん

30源信明（みなもとのさねあきら）こひしさは同じこころにあらずとも今宵の月をきみ見ざらめや

31源順（みなもとのしたがう）水のおもに照る月なみをかぞふれば今宵ぞ秋のもなかなりける

32清原元輔（きよはらのもとすけ）秋の野の萩の錦をふるさとに鹿の音ながらうつしてしがな

33藤原元真（ふじわらのもとざね）年ごとの春のわかれをあはれとも人におくるる人ぞしるらん

34藤原仲文（ふじわらのなかぶみ）ありあけの月のひかりを待つほどにわがよのいたくふけにけるかな

35壬生忠見（みぶのただみ）焼かずとも草はもえなむ春日野をただ春の日にまかせたらなむ

36中務（なかつかさ）うぐひすの声なかりせば雪消えぬ山里いかで春を知らまじ

（五十音）

・在原業平4 世の中にたえて櫻のなかりせば春のこおろはのどけからまし

・伊勢20 三輪の山いかに待ち見む年経ともたづぬる人もあらじと思へば

・凡河内躬恒2 いづくとも春のひかりはわかんくにまだみ吉野の山は雪ふる

・大伴家持3 さをしかの朝たつ小野の秋萩に玉と見るまでおける白露

・大中臣能宣17 千とせまでかぎれる松もけふよりはきみに引かれてよろづよや経む

・大中臣頼基28 筑波山いとどしげきに紅葉して道みえぬまで落ちやしぬらん

・小野小町24 いろ見えでうつろふものは世の中のこころのはなにぞありける

・柿本人麻呂1 ほのぼのとあかしの浦のあさぎりに島がくれゆく舟をしぞおもふ

・紀貫之19 さくらちる木の下風は寒からで空にしられぬ雪ぞ降りける

・紀友則23 夕されば佐保のかはらの川霧に友まよはする千鳥なくなり

・清原元輔32 秋の野の萩の錦をふるさとに鹿の音ながらうつしてしがな

・小大君16 岩橋の夜の契りも絶えぬべい明くるわびしき葛城の神

・齋宮女御10 琴の緒とに峯の松風かよふらしいづれの緒よりしらべそめけむ

・坂上是則15 みいよしのの山の白雪つもるらしふるさとさむくなりまさりゆく

・猿丸太夫6 をちこちのたつきもしらぬやま中におぼつかなくも呼子鳥かな

・僧正遍照22 すゑの露もとのしづくや世の中のおくれ先だつためしなるらん

・素性法師5 いま来むといひしばかりの長月の有明の月を待ちいでつるかな

・平兼盛18 かぞふればわが身に積るとしつきを送りむかふと何いそぐらん

・中務36 うぐひすの声なかりせば雪消えぬ山里いかで春を知らまじ

・藤原朝忠25 逢ふことの絶えてしなくばなかなかに人をも身をもうらみざらまし

　藤原敦忠8 あひみてののちのこころにくらぶれば昔はものを思はざりけり

　藤原興風14 たれをかも知る人にせむ高砂の松も昔の友ならなくに

　藤原兼輔7 人の親のこころはやみにあらねども子を思ふ道にまよひぬるかな

　藤原清正13 子の日しにしめつる野辺のひめこ松引かでや千代のかげを待たまし

・藤原高光26 かくばかり経がたく見ゆる世の中にうらやましくも澄める月かな

・藤原敏之12 秋きぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

・藤原仲文34 ありあけの月のひかりを待つほどにわがよのいたくふけにけるかな

・藤原元真33 年ごとの春のわかれをあはれとも人におくるる人ぞしるらん

・源公忠9 行きやらで山路くらしつほととぎすいまひとこゑの聞かまほしさに

・源重之29 吉野山峯のしら雪いつ消えてけさは霞のたちかはるらん

・源順31 水のおもに照る月なみをかぞふれば今宵ぞ秋のもなかなりける

・源信明30 こひしさは同じこころにあらずとも今宵の月をきみ見ざらめや

・源宗于11 ときはなる松のみどりも春くればいまひとしほの色まさりけり

・壬生忠見35 焼かずとも草はもえなむ春日野をただ春の日にまかせたらなむ

・壬生忠岑27 春立つといふばかりにやみよしのの山もかすみてけさは見ゆらん

・山辺赤人21 わかの浦に潮みちくればかたをなみ葦辺をさしてたづ鳴きわたる

　住吉大明神18＋ 夜や寒き衣やうすきかたそぎの行きあはぬ間より霜や置くらむ

三十六歌仙（中古）

1. 和泉式部
2. 恵慶法師
3. 能因法師
4. 曾禰好忠
5. 藤原実方
6. 平　定文
7. 大江嘉言
8. 藤原直雅
9. 在原元方
10. 藤原公任
11. 藤原高遠
12. 藤原義孝
13. 藤原道綱母
14. 藤原定頼
15. 兼覧王
16. 文屋康秀
17. 菅原輔正
18. 安法法師
19. 相模
20. 赤染衛門
21. 伊勢大輔
22. 道命法師
23. 藤原道信
24. 清原深養父
25. 源　道済
26. 増基法師
27. 大江千里
28. 大中臣輔親
29. 馬内侍
30. 紫式部
31. 藤原長能
32. 上東門院中将
33. 在原棟梁
34. 藤原忠房
35. 大江匡衡
36. 清少納言

三十六歌仙（女房）

1. 小野小町
2. 式子内親王
3. 伊勢
4. 宮内卿
5. 中務
6. 周防内侍
7. 斎宮女御
8. 俊成女
9. 季綱女
10. 待賢門院堀川
11. 右近衛大捷道綱女
12. 宜秋門院丹後
13. 馬内侍
14. 嘉陽門院越前
15. 赤染衛門
16. 二条院讃岐
17. 和泉式部
18. 小侍従
19. 女蔵人右近
20. 後鳥羽院下野
21. 紫式部
22. 辨内侍
23. 小式部
24. 少將内侍
25. 伊勢大輔
26. 殷富門院大輔
27. 清少納言
28. 土御門院小宰相
29. 大弐三位
30. 八条院高倉
31. 高内侍
32. 後嵯峨院中納言典侍
33. 一宮紀伊
34. 式乾門院御匣
35. 相模
36. 藻壁門院少將

47

いろは

いろはにほへと　ちりぬるを

わかよたれそ　つねならむ

うゐのをくやま　けふこへて

あさきゆめみし　ゑひもせす

四十七士、実名（國芳／誠忠義士傳、仮名）全47

赤埴源藏重賢（阪垣源藏正堅）（七）

磯貝十郎左衛門正久（礒合重郎右衛門正久）（十）

潮田又之丞高教（潮田政之丞高教）（廿八）

大石内藏助良雄（大星由良之助良雄）（一）

大石瀬左衛門信清（大星清左衛門信清）（三十二）

大石主税良金（大星力弥良兼）（二）

大高源五忠雄（大鷹玄吾忠雄）（十四）

岡嶋八十右衛門常樹（岡島弥惣右衛門常樹）（十七）

岡野金右衛門包秀（岡野銀右衛門包秀）（十一）

奥田貞右衛門行高（徳田貞右衛門行高）（二十）

奥田孫太夫重盛（徳田孫太夫重盛）（三十七）

小野寺幸右衛門秀富（小野寺藤右衛門秀留）（三十）

小野寺十内秀和（小野寺重内秀知）（九）

貝賀弥左衛門友信（甲斐田弥太右衛門友信）（四十八）

片岡源五左衛門（片岡傳五右衛門高房）（十五）

勝田新左衛門武尭（勝多眞右衛門武堯）（廿三）

神崎与五郎則休（千嵜矢五郎則休）（十二）

木村岡右衛門貞行（木浦岡右衛門貞行）（廿二）

倉橋伝助武幸（藏橋全助武幸）（廿五）

菅谷半之丞政利（菅屋三之丞正利）（三十三）

杉野十兵次次房（角野重平次次房）（四十五）

千馬三郎兵衛光忠（千葉三郎平満忠）（三十一）

竹林唯七隆重（竹林定七隆重）（廿四）

近松勘六行重（鹿松諌六行重）（五）

茅野和助常成（早野輪助常成）（三十五）

寺坂吉右衛門信行（寺岡平右衛門信行）（十八）

富森助右衛門正因（富守祐右衛門正固）（廿七）

中村勘助正辰（中村諌助匡辰）（十六）

間喜兵衛光延（矢間喜平光延）（四十三）

間重治郎光興（矢間重次郎元興）（十三）

間新六光風（矢間眞六光風）（四十）

早水藤左衛門満尭（早水総左衛門満堯）（廿九）

原惣右衛門元辰（原郷右衛門元辰）（四十六）

不破数右衛門正種（不羽勝右衛門正種）（四）

堀部安兵衛武庸（織部易兵衛武庸）（三十四）

堀部弥兵衛金丸（織部矢兵衛金丸）（廿一）

間瀬久太夫正明（間勢宙太夫正明）（四十四）

間瀬孫九郎正辰（間勢孫四郎正辰）（四十一）

前原伊助定房（相原江助宗房）（廿六）

三村次郎左衛門包常（三浦治郎右衛門包常）（四十九）

村松喜兵衛秀直（浦松半大夫高直）（十九）

村松三太夫高直（浦松喜兵衛秀直入道隆圓）（四十二）

矢田五郎右衛門助武（矢多五郎右衛門祐武）（三十六）

矢頭右衛門七教兼（矢頭與茂七教兼）（三）

横川勘平宗利（行川三平宗則）（八）

吉田沢右衛門兼貞（吉田定右衛門兼貞）（六）

吉田忠左衛門兼亮（芳田忠左衛門兼亮）（五十）

（四十七士以外）全4

塩谷判官高貞（三十九）

高野武藏守師直（三十八）

鹿松諌六家僕塵三郎（大尾）

早野勘平常世（四十七）

（國芳／誠忠義心傳）\*夫人、家僕ほか　全18

相原江助宗房妹（十一）

天川屋義兵衛（六）

礪師田左衛門（十五）

上嶋門弥（七）

浦松半大夫の妻（十三）

塩谷家の奥女中　都多の局（五）

大星三平信知（十七）

大星良雄内室　石女（一）

岡野銀右衛門妻（十四）

斧寺重内　妻（四）

織部金丸の娘　花女（三）

後室瑶心院尼（八）

嶌原の遊君　柏木太夫（十二）

竹林定七の母（十）

富守祐右衛門の母（九）

矢頭蝶助教次（十六）

山岡覺平の妻　竹女（二）

老僕勝助（十八）

53

東海道五十三次（日本橋〜京師の五十三の宿場、1750年代までに、俳諧師らが故事来歴を勘案して選択、確定して行ったか。この名数53も、実は源氏物語に倣い、仏典から素数の53にして経緯がある）

1 日本橋　2　品川　3　川崎　4　神奈川　5　保土ヶ谷　6　戸塚　7　藤澤　8　平塚　9　大磯

10　小田原　11　箱根　12　三島　13　沼津　14　原　15　吉原　16　蒲原　17　由井　18　興津

19　江尻　20　府中　21　鞠子　22　岡部　23　藤枝　24　嶋田　25　金谷　26　日坂　27　掛川　28　袋井　29　見附　30　浜松　31　舞阪　32　荒井　33　白須賀　34　二川　35　吉田　36　御油

37　赤坂　38　藤川　39　岡崎　40　池鯉鮒　41　鳴海　42　宮　43　桑名　44　四日市　45　石薬師　46　庄野　47　亀山　48　関　49　坂の下　50　土山　51　水口　52　石部　53　草津　54　大津　55　京師（けいし）　56（内裏）

東海道五十三次（五十音）

赤坂37　荒井32　石部52　石薬師45　江尻19　小田原10　大磯9　大津54　岡崎39　岡部22

興津18　神奈川4　掛川27　金谷25　亀山47　川崎3　蒲原16　京師55　草津53　桑名43　（京都55）　御油36　坂の下49　品川2　嶋田24　庄野46　白須賀33　関48　池鯉鮒40　土山50　戸塚6　鳴海41　日本橋1　日坂26　沼津13　箱根11　浜松30　原14　平塚8　府中20　袋井28　藤枝23　藤川38　藤澤7　二川34　保土ヶ谷5　舞阪31　鞠子21　三島12　見附29　水口51　宮42　由井17　四日市44　吉田35　吉原15

53

源氏物語五十余帖（\*余は、この場合、三を意味する。「ゴジュウヨ」で、54「ゴジュウシ」ではない）

1　桐壺（きりつぼ）　2　帚木（ははきぎ）　3　空蝉（うつせみ）　4　夕顔（ゆうがお）　5　若紫（わかむらさき）　6　末摘花（すえつむはな）7　紅葉賀（もみじが）　8　花宴（はなのえん）　9　葵（あおい）　10　賢木（さかき）　11　花散里（はなちるさと）　12　須磨（すま）　13　明石（あかし）　14　澪標（みおつくし）　15　蓬生（よもぎゅう）　16　関屋（せきや）　17　絵合（えあわせ）　18　松風（まつかぜ）　19　薄雲（うすぐも）　20　槿（あさがお）　21　乙女　22　玉鬘（たまかづら）　23　初音（はつね）　24　胡蝶（こちょう）　25　蛍（ほたる）　26　常夏（とこなつ）　27　篝火（かがりび）　28　野分（のわき）　29　御幸（みゆき）　30　藤袴（ふじばかま）　31　真木柱（まきばしら）　32　梅枝（うめがえ）　33　藤裏葉　34　若菜　35　柏木　36　横笛　37　鈴虫　38　夕霧　39　御法（みのり）　40　幻（まぼろし）　41　匂宮（におうのみや）　42　紅梅（こうばい）　43　竹河（たけかわ）　44　橋姫（はしひめ）　45　椎本（しいがもと）　46　総角（あげまき）　47　早蕨（さわらび）　48　宿木（やどりぎ）　49　東屋（あづまや）　50　浮舟（うきふね）　51　蜻蛉（かげろう）　52　手習（てならい）　53　夢浮橋（ゆめのうきはし）

（雁註）光源氏の亡くなる雲隠（くもがくれ）は存在しない。若菜は一つの巻であるから、一巻とする。名数は本来、不思議な数、つまり素数に由来している。紫式部は、仏典を読み、夫婦、男女、親子の確執が釈迦の慈悲によって救われると体験した。このため、物語を五十三帖とした。五十三は素数、五十四では素数にならない。

源氏物語五十三帖（五十音）

葵9　明石13　総角46　槿20　東屋49　浮舟50　薄雲19　空蝉3　梅枝32　絵合17　乙女21　篝火27　蜻蛉51　柏木35　桐壷1　雲隠（0）　胡蝶24　紅梅42　早蕨47　賢木10　須磨12　末摘花6　鈴虫37　関屋16　竹河43　玉鬘22　手習52　常夏26　匂宮41　野分28　橋姫44　初音23　花散里11　花宴8　帚木2　藤裏葉33　藤袴30　蛍25　真木柱31　松風邪18　幻40　御法39　御幸29　澪標14　紅葉賀7　宿木48　夕顔4　夕霧38　夢浮橋53　横笛36　蓬生15　若菜34　若紫5

60余（「ロクジュウヨ」であって、64「ロクジュウシ」ではない）

廣重／六十余州名所図会は、下記の州名＋江戸＝70

国郡県

01山城（やましろ）02大和（やまと）03河内（かわち）04和泉（いずみ）05摂津（せっつ）06伊賀（いが）07伊勢（いせ）08志摩（しま）09尾張（をわり）10三河（みかわ）11遠江（とおとうみ）

12駿河（するが）13甲斐（かい）14伊豆（いず）15相模（さがみ）16武藏（むさし）17安房（あわ）

18上総（かずさ）19下総（しもうさ20常陸（ひたち）21近江（おうみ）22美濃（みの23飛騨（ひだ）

24信濃（しなの）25上野（こうづけ）26下野（しもつけ）27-1陸奥1（みちのく1）27-2陸奥2＿陸中（みちのく2＿りくちゅう）27-3陸奥3＿陸前（みちのく3＿りくぜん）27-4陸奥4＿岩代（みちのく4＿いわしろ）27-5陸奥5＿磐城（みちのく5＿いわき）28羽前（うぜん）29羽後（うご）30若狭（わかさ）31越前（えちぜん）32加賀（かが）33能登（のと）34越中（えっちゅう）35越後（えちご）

36佐渡（さど）37丹波（たんば）38丹後（たんご）39但馬（たじま）40因幡（いなば）41伯耆（ほうき）42出雲（いずも）43岩見（いわみ44隠岐（おき）45播磨（はりま）46美作（みまさか）47備前（びぜん）48備中（びっちゅう）49備後（びんご）50安藝（あき）51周防（すおう）52長門（ながと）53紀伊（きい）54淡路（あわじ）55阿波（あわ）56讃岐（さぬき）57伊予（いよ）

58土佐（とさ）59筑前（ちくぜん）60筑後（ちくご）61豊前（ぶぜん）62豊後（ぶんご）63肥前（ひぜん）64肥後（ひご）65日向（ひゅうが）66大隅（おおすみ）67薩摩（さつま）68壱岐（いき）

69対馬（つしま）

国群県（五十音）

あき安藝 50　あわ安房17　あわ阿波 55　あわじ淡路54　いが伊賀06　いき壱岐68　いず伊豆 14

いずみ和泉04　いずも出雲42　いせ伊勢07　いなば因幡40　いよ伊予57　いわき磐城27-5

いわしろ岩代27-4　いわみ岩見43　うご羽後29　うぜん羽前28　えちご越後35　えちぜん越前31

えっちゅう越中34　おうみ近江21　おおすみ大隅66　おき隠岐44　かい甲斐13　かが加賀32

かずさ上総18　かわち河内03　きい紀伊53　こうずけ上野25　さがみ相模15　さつま薩摩67

さど佐渡36　さぬき讃岐56　しなの信濃24　しま志摩08　しもうさ下総19　しもつけ下野26

すおう周防51　するが駿河12　せっつ摂津05　たじま但馬39　たんご丹後38　たんば丹波37

ちくご筑後60　ちくぜん筑前59　つしま対馬69　とおとうみ遠江11　とさ土佐58　ながと長門52

のと能登33　はりま播磨45　ひご肥後64　ひぜん肥前63　びぜん備前47　ひだ飛騨23　ひたち常陸20　びっちゅう備中48　ひゅうが日向65　びんご備後49　ぶぜん豊前61　ぶんご豊後62　ほうき伯耆41　みかわ三河10　みちのく1陸奥127-1　みの美濃22　みまさか美作46　むさし武藏16　やましろ山城01　やまと大和02　りくぜん陸前27-3　りくちゅう陸中27-2　わかさ若狭30　をわり尾張09

70

木曾六十九次（中山道）\*京師は含まないが、日本橋を含むため70

1 日本橋（にほんばし）　2　板橋（いたばし）　3　蕨（わらび）　4　浦和（うらわ）　5　大宮（おおみや）　6　上尾（あげお）　7　桶川（おけかわ）　8　鴻巣（こうのす）　9　熊ヶ谷（くまがや）　10　深谷（ふかや）　11　本庄（ほんじょう）　12　新町（しんまち）　13　倉賀野（くらがの）　14　高崎（たかさき）　15　板鼻（いたはな）　16　案中（あんなか）　17　松井田（まついだ）　18　坂本（さかもと）　19　軽井沢（かるいざわ）　20　沓掛（くつかけ）　21　追分（おいわけ）　22　小田井（おだい）　23　岩村田（いわむらた）　24　塩なだ（しおなだ）　25　八幡（やわた）　26　望月（もちづき）　27　あし田（あしだ）　28　長久保（ながくぼ）　29　和田（わだ）　30　下諏訪（しもすわ）　31　塩尻嶺（しおじりとうげ）　32　洗馬（せば）　33　本山（もとやま）　34　贄川（にえかわ）　35　奈良井（ならい）　36　薮原（やぶはら）　37　宮ノ越（みやのこし）　38　福しま（ふくしま）　39　上ヶ松（あげまつ）　40　須原（すはら）　41　野尻（のじり）　42　三渡野（みとの）　43　妻籠（つまごめ）　44　馬籠（まごめ）　45　落合（おちあい）　46　中津川（なかつがわ）　47　大井（おおい）　48　大久手（おおくて）　49　細久手（ほそくて）　50　御嶽（みたけ）　51　伏見（ふしみ）　52　太田（おおた）　53　鵜沼（うぬま）　54　加納（かのう）　55　河渡（ごうと）　56　みゑじ　57　赤坂（あかさか）　58　垂井（たるい）　59　関ヶ原（せきがはら）　60　今須（います）　61　柏原（かしわばら）　62　醒ケ井（さめがい）　63　番場（ばんば）　64　鳥居本（とりいもと）　65　高宮（たかみや）　66　恵智川（えちがわ）　67　武佐（むさ）　68　守山（もりやま）　69　草津追分（くさつおいわけ）　70　大津（おおつ）

木曾六十九次（五十音）

赤坂57　上尾6　上ヶ松39　あし田27　案中16　板橋2　板鼻15　今須60　岩村田23　鵜沼53　浦和4　恵智川66　小田井22　追分21　大井47　大久手48　大津70　大宮5　太田52　桶川7　落合45　加納54　柏原61　軽井沢19　沓掛20　草津追分69　熊ヶ谷9　倉賀野13　鴻巣8　河渡55　坂本18　醒ケ井62　塩尻嶺31　塩なだ24　下諏訪30　新町12　須原40　洗馬32　関ヶ原59　高宮65　垂井58　妻籠43　鳥居本64　奈良井35　中津川46　長久保28　日本橋1　贄川34　野尻41　番場63　深谷10　福しま38　伏見51　細久手49　本庄11　馬籠44　松井田17　三渡野42　御嶽50　宮ノ越37　みゑじ56　武佐67　望月26　本山33　守山68　八幡25　薮原36　和田29　蕨3

100

百人一首　\* 藤原定家（1162-1241）が小倉山で選んだ（1235c）小倉百人一首。

1　天智天皇（てんぢてんのう）秋の田のかりほの庵のとまをあらみ　我がころも手は露にぬれつつ

2　持統天皇（じとうてんのう）春過ぎて夏来にけらし白妙の　衣ほすてふ天の香具山

3　柿本人麻呂（かきのもとのひとまろ）あしひきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかもねむ

4　山辺赤人（やまべのあかひと）田子の浦にうちいでて見れば白妙の　富士の高嶺に雪はふりつつ

5　猿丸太夫（さるまるだゆう）おく山に紅葉ふみわけなく鹿の　声きく時ぞ秋はかなしき

6　大伴家持（おおとものやかもち）かささぎのわたせる橋におく霜の　白きを見れば夜ぞふけにける

7　安倍仲麻呂（あべのなかまろ）天の原ふりさけ見れば春日なる　三笠の山に出でし月かも

8　喜撰法師（きせんほうし）我が庵は都のたつみしかぞすむ　世を宇治山と人はいふなり

9　小野小町（おののこまち）花の色はうつりにけりないたづらに　わが身世にふるながめせしまに

10　蝉丸 （せみまる）これやこの往くもかへるも別れては　知るも知らぬも逢坂の関

11　小野篁（おののたかむら）わたの原八十島かけて漕ぎ出でぬと　人にはつげよあまのつり舟

12　僧正遍照（そうじょうへんじょう）天津風雲の通ひ路吹きとぢよ　をとめの姿しばしとどめむ

13　陽成院（ようぜいいん） つくばねの峰よりおつるみなの川　恋ぞつもりて淵となりぬる

14　源融 河原左大臣（みなもとのとおる）陸奥のしのぶもぢずり誰ゆゑに　乱れそめにしわれならなくに

15　光孝天皇（こうこうてんのう）君がため春の野に出でて若菜つむ　我が衣手に雪はふりつつ

16　在原行平（ありわらのゆきひら）立ち別れいなばの山の峰に生ふる　まつとしきかば今かへり来む

17　在原業平（ありわらのなりひら）千早ぶる神代もきかず龍田川　からくれなゐに水くくるとは

18　藤原敏行（ふじわらのとしゆき）住の江の岸による波よるさへや　夢の通ひ路人目よくらむ

19　伊勢 （いせ） 難波潟みじかき芦のふしの間も　あはでこの世を過ぐしてよとや

20　元良親王（もとよししんのう）わびぬれば今はた同じ難波なる　身をつくしても逢はむとぞ思ふ

21　素性法師（そせいほうし）今来むといひしばかりに長月の　有明の月を待ち出でつるかな

22　文屋康秀（ふんやのやすひで）吹くからに秋の草木のしをるれば　むべ山風をあらしといふらむ

23　大江千里（おおえのせんり）月見ればちぢにものこそ悲しけれ　わが身ひとつの秋にはあらねど

24　菅原道真（すがわらのみちざね）このたびは幣も取りあへず手向山　紅葉のにしき神のまにまに

25　藤原定方（ふじわらのさだかた）名にしおはば逢坂山のさねかづら　人に知られでくるよしもがな

26　藤原忠平貞信（ふじわらのさだのぶ）小倉山峰のもみぢ葉心あらば　今ひとたびのみゆき待たなむ

27　藤原兼輔（ふじわらのかねすけ）みかの原わきて流るる泉川 　いつみきとてか恋しかるらむ

28　源宗于（みなもとのむねゆき）山里は冬ぞさびしさまさりける　人めも草もかれぬと思へば

29　凡河内躬恒（おおしこうちのみつね）心あてに折らばや折らむ初霜の　おきまどはせる白菊の花

30　壬生忠岑（みぶのただみね）有明のつれなく見えし別れより　暁ばかりうきものはなし

31　坂上是則（さかのうえのこれのり）朝ぼらけ有明の月と見るまでに　吉野の里にふれる白雪

32　春道列樹（はるみちのつらき）山川に風のかけたるしがらみは　流れもあへぬもみぢなりけり

33　紀友則（きのとものり） 久かたの光のどけき春の日に　しづ心なく花の散るらむ

34　藤原24　菅原道真（すがわらのみちざね）このたびは幣も取りあへず手向山　紅葉のにしき神のまにまに

興風（ふじわらのおきかぜ）誰をかも知る人にせむ高砂の　松もむかしの友ならなくに

35　紀貫之（きのつらゆき） 人はいさ心も知らずふるさとは　花ぞむかしの香ににほひける

36　清原深養父（きよはらのふかやぶ）夏の夜はまだよひながら明けぬるを　雲のいづこに月やどるらむ

37　文屋朝康（ふんやのあさやす）白露に風の吹きしく秋の野は　つらぬきとめぬ玉ぞ散りける

38　右近 （うこん）忘らるる身をば思はず誓ひてし　人の命の惜しくもあるかな

39　源等 （みなもとのひとし）浅茅生のをののしの原しのぶれど　あまりてなどか人の恋しき

40　平兼盛（たいらのかねもり）しのぶれど色に出でにけりわが恋は　ものや思ふと人の問ふまで

41　壬生忠見（みぶのただみ）恋すてふわが名はまだき立ちにけり　人知れずこそ思ひそめしか

42　清原元輔（きよはらのもとすけ）契りきなかたみに袖をしぼりつつ　末の松山波こさじとは

43　藤原敦忠（ふじわらのあつただ）逢ひ見ての後の心にくらぶれば　昔はものを思はざりけり

44　藤原朝忠（ふじわらのあさただ）逢ふことの絶えてしなくはなかなかに　人をも身をも恨みざらまし

45　藤原伊尹（ふじわらのこれただ）　あはれともいふべき人は思ほえで　身のいたづらになりぬべきかな

46　曽根好忠（そねのよしただ）由良のとをわたる舟人かぢをたえ　行く方も知らぬ恋の道かな

47　恵慶法師（えけいほうし）八重むぐらしげれる宿のさびしきに　人こそ見えね秋はきにけり

48　源重之（みなもとのしげゆき）風をいたみ岩うつ波のおのれのみ　砕けてものを思ふころかな

49　大中臣能宣（おおなかとみのよしのぶ）御垣守衛士のたく火の夜はもえ　昼は消えつつものをこそ思へ

50　藤原義孝（ふじわらのよしたか）君がため惜しからざりし命さへ　ながくもがなと思ひけるかな

51　藤原実方（ふじわらのさねかた）かくとだにえやは伊吹のさしも草　さしも知らじな燃ゆる思ひを

52　藤原道信（ふじわらのみちのぶ）明けぬれば暮るるものとは知りながら　なほ恨めしきあさぼらけかな

53　道綱母（みちつぐのはは）歎きつつひとりぬる夜の明くる間は　いかに久しきものとかは知る

54　儀同三司母（ぎどうさんしのはは）忘れじの行末までは難ければ　今日をかぎりの命ともがな

55　藤原公任（ふじわらのきんとう）滝の音は絶えて久しくなりぬれど　名こそ流れてなほ聞えけれ

56　和泉式部（いずみしきぶ）あらざらむこの世のほかの思ひ出に　今ひとたびの逢ふこともがな

57　紫式部（むらさきしきぶ）巡りあひて見しやそれともわかぬ間に　雲がくれにし夜半の月かな

58　大弐三位（だいにのさんみ）有馬山猪名のささ原風吹けば　いでそよ人を忘れやはする

59　赤染衛門（あかぞめえもん）やすらはで寝なましものを小夜更けて　傾くまでの月を見しかな

60　小式部内侍（こしきぶのないし）大江山いく野の道の遠ければ　まだふみも見ず天の橋立

61　伊勢大輔（いせおおすけ）いにしへの奈良の都の八重桜　今日九重に匂ひぬるかな

62　清少納言（せいしょうなごん）夜をこめて鳥のそら音ははかるとも　世に逢坂の関はゆるさじ

63　藤原道雅（ふじわらのみちまさ）今はただ思ひ絶えなむとばかりを　人づてならで言ふよしもがな

64　藤原貞頼（ふじわらのさだより）朝ぼらけ宇治の川霧たえだえに　あらはれわたる瀬々の網代木

65　相模 （さがみ）恨みわびほさぬ袖だにあるものを　恋に朽ちなむ名こそ惜しけれ

66　行尊 （ぎょうそん）もろともにあはれと思へ山桜　花よりほかに知る人もなし

67　周防内侍（すおうのないし）春の夜の夢ばかりなる手枕に　かひなく立たむ名こそ惜しけれ

68　三条院（さんじょういん）心にもあらでうき世にながらへば　恋しかるべき夜半の月かな

69　能因法師（のういんほうし）あらし吹く三室の山のもみぢ葉は　龍田の川のにしきなりけり

70　良暹法師（りょうぜんほうし）寂しさに宿を立ち出でてながむれば　いづこもおなじ秋の夕暮

71　源経信（みなもとのつねのぶ）夕されば門田の稲葉おとづれて　芦のまろやに秋風ぞ吹く

72　祐子内親王紀伊（ゆうしないしんのう）音にきく高師の浜のあだ波は　かけじや袖の濡れもこそすれ

73　大江匡房（おおえまさふさ）高砂の尾の上の桜咲きにけり　外山の霞たたずもあらなむ

74　源俊頼（みなもとのとりよし）うかりける人を初瀬の山おろしよ　はげしかれとは祈らぬものを

75　藤原基俊（ふじわらのもととし）契りおきしさせもが露を命にて　あはれ今年の秋も去ぬめり

76　藤原忠通（ふじわらのただみち）わたの原漕ぎ出でて見れば久かたの　雲ゐにまがふ沖つ白波

77　崇徳院（すとくいん）瀬をはやみ岩にせかるる滝川の　われても末に逢はむとぞ思ふ

78　源兼昌（みなもとのかねまさ）淡路島通ふ千鳥の鳴く声に　幾夜ねざめぬ須磨の関守

79　藤原顕輔（ふじわらのあきすけ）秋風にたなびく雲の絶え間より　もれ出づる月の影のさやけさ

80　待賢門院堀川（たいけんもんいんほりかわ）ながからむ心も知らず黒髪の　乱れて今朝はものをこそ思へ

81　藤原実定（ふじわらのさねさあ）ほととぎす鳴きつる方を眺むれば　ただ有明の月ぞのこれる

82　道因法師（どういんほうし）思ひわびさても命はあるものを　憂きに堪へぬは涙なりけり

83　藤原俊成（ふじわらのしゅんぜい）世の中よ道こそなけれ思ひ入る　山の奥にも鹿ぞ鳴くなる

84　藤原清輔（ふじわらのきよすけ）ながらへばまたこの頃やしのばれむ　憂しと見し世ぞ今は恋しき

85　俊恵法師（しゅんえいほうし）夜もすがらもの思ふ頃は明けやらで　ねやのひまさへつれなかりけり

86　西行法師（さいぎょうほうし）なげけとて月やはものを思はする　かこち顔なるわが涙かな

87　寂蓮法師（じゃくれんほうし）むらさめの露もまだひぬまきの葉に　霧立のぼる秋の夕暮

88　皇嘉門院別当（こうかもんいんべっとう）難波江の芦のかりねの一夜ゆゑ　身をつくしてや恋ひわたるべき

89　式子内親王（しきしないしんのう）玉の緒よ絶なば絶えねながらへば　忍ぶることのよわりもぞする

90　殷富門院大輔（いんぷもんいんおおすけ）見せばやな雄島のあまの袖だにも　濡れにぞ濡れし色は変らず

91　藤原良経（ふじわらよしつね）きりぎりす鳴くや霜夜のさむしろに　衣かたしきひとりかも寝む

92　二条院讃岐（にじょういんさぬき）わが袖は潮干にみえぬ沖の石の　人こそ知らね乾く間もなし

93　源実朝（みなもとのさねとも）世の中は常にもがもな渚こぐ　あまの小舟の綱手かなしも

94　藤原雅経（ふじわらのまさつね）みよし野の山の秋風小夜ふけて　ふるさと寒く衣うつなり

95　慈円 （じえん）おほけなくうき世の民におほふかな　わが立つ杣に墨染の袖

96　西園寺公経（さいおんじきんつね）花さそふあらしの庭の雪ならで　ふりゆくものは我が身なりけり

97　藤原定家（ふじわらのていか）来ぬ人をまつほの浦の夕なぎに　焼くや藻塩の身もこがれつつ

98　藤原家隆（ふじわらのいえたか）風そよぐならの小川の夕暮は　みそぎぞ夏のしるしなりける

99　後鳥羽院（ごとばいん）人も惜し人も恨めしあぢきなく　世を思ふゆゑにもの思ふ身は

100　順徳院（じゅんとくいん）百敷や古き軒端のしのぶにも　なほあまりある昔なりけり

百人一首（五十音）

赤染衛門（あかぞめえもん）59　やすらはで寝なましものを小夜更けて　傾くまでの月を見しかな

安倍仲麻呂（あべのなかまろ）7　天の原ふりさけ見れば春日なる　三笠の山に出でし月かも

在原業平（ありわらのなりひら）17　千早ぶる神代もきかず龍田川　からくれなゐに水くくるとは

在原行平（ありわらのゆきひら）16　立ち別れいなばの山の峰に生ふる　まつとしきかば今かへり来む

和泉式部（いずみしきぶ）56　あらざらむこの世のほかの思ひ出に　今ひとたびの逢ふこともがな

伊勢（いせ）19　難波潟みじかき芦のふしの間も　あはでこの世を過ぐしてよとや

伊勢大輔（いせおおすけ）61　いにしへの奈良の都の八重桜　今日九重に匂ひぬるかな

殷富門院大輔（いんぷもんいんおおすけ）90　見せばやな雄島のあまの袖だにも　濡れにぞ濡れし色は変らず

右近（うこん）38　忘らるる身をば思はず誓ひてし　人の命の惜しくもあるかな

右大将道綱母（うだいしょうみちつなのはは）53 歎きつつひとりぬる夜の明くる間は　いかに久しきものとかは知る

恵慶法師（えけいほうし）47　八重むぐらしげれる宿のさびしきに　人こそ見えね秋はきにけり

大江千里（おおえのちさと）23　月見ればちぢにものこそ悲しけれ　わが身ひとつの秋にはあらねど

大江匡房（おおえまさふさ）73　高砂の尾の上の桜咲きにけり　外山の霞たたずもあらなむ

凡河内躬恒（おおしこうちのみつね）29　心あてに折らばや折らむ初霜の　おきまどはせる白菊の花

大伴家持（おおとものやかもち）6　かささぎのわたせる橋におく霜の　白きを見れば夜ぞふけにける

大中臣能宣（おおなかとみのよしのぶ）49　御垣守衛士のたく火の夜はもえ　昼は消えつつものをこそ思へ

小野小町（おののこまち）9　花の色はうつりにけりないたづらに　わが身世にふるながめせしまに

小野篁（おののたかむら）11　わたの原八十島かけて漕ぎ出でぬと　人にはつげよあまのつり舟

柿本人麻呂（かきのもとのひとまろ）3　あしひきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかもねむ

河原左大臣融（かわらさだいじん）14　陸奥のしのぶもぢずり誰ゆゑに　乱れそめにしわれならなくに

喜撰法師（きせんほうし）8　我が庵は都のたつみしかぞすむ　世を宇治山と人はいふなり

儀同三司母（ぎどうさんしのはは）54　忘れじの行末までは難ければ　今日をかぎりの命ともがな

紀貫之（きのつらゆき）35人はいさ心も知らずふるさとは　花ぞむかしの香ににほひける

紀友則（きのとものり）33　久かたの光のどけき春の日に　しづ心なく花の散るらむ

行尊（ぎょうそん）66　もろともにあはれと思へ山桜　花よりほかに知る人もなし

清原深養父（きよはらのふかやぶ）36　夏の夜はまだよひながら明けぬるを　雲のいづこに月やどるらむ

清原元輔（きよはらのもとすけ）42　契りきなかたみに袖をしぼりつつ　末の松山波こさじとは

謙徳公藤原伊尹（けんとくこう）45　あはれともいふべき人は思ほえで　身のいたづらになりぬべきかな

皇嘉門院別当（こうかもんいんべっとう）88　難波江の芦のかりねの一夜ゆゑ　身をつくしてや恋ひわたるべき

光孝天皇（こうこうてんのう）15　君がため春の野に出でて若菜つむ　我が衣手に雪はふりつつ

後京極摂政藤原良経（ごきょうごく…）91　きりぎりす鳴くや霜夜のさむしろに　衣かたしきひとりかも寝む

小式部内侍（こしきぶのないし）60　大江山いく野の道の遠ければ　まだふみも見ず天の橋立

後徳大寺左大臣藤原実定（ごとくだいじ）81　ほととぎす鳴きつる方を眺むれば　ただ有明の月ぞのこれる

後鳥羽院（ごとばいん）99　人も惜し人も恨めしあぢきなく　世を思ふゆゑにもの思ふ身は

権中納言大江匡房（ごんちゅうなごん）73　高砂の尾の上の桜咲きにけり　外山の霞たたずもあらなむ

権中納言藤原敦忠（ごんちゅうなごん）43　逢ひ見ての後の心にくらぶれば　昔はものを思はざりけり

権中納言藤原定家（ごんちゅうなごん）97　来ぬ人をまつほの浦の夕なぎに　焼くや藻塩の身もこがれつつ

権中納言藤原定頼（ごんちゅうなごん）64　朝ぼらけ宇治の川霧たえだえに　あらはれわたる瀬々の網代木

西園寺公経（さいおんじきんつね）96　花さそふあらしの庭の雪ならで　ふりゆくものは我が身なりけり

西行法師（さいぎょうほうし）86　なげけとて月やはものを思はする　かこち顔なるわが涙かな

坂上是則（さかのうえのこれのり）31　朝ぼらけ有明の月と見るまでに　吉野の里にふれる白雪

相模（さがみ）65　恨みわびほさぬ袖だにあるものを　恋に朽ちなむ名こそ惜しけれ

前権中納言大江匡房（さきのごんちゅうなごん）73　高砂の尾の上の桜咲きにけり　外山の霞たたずもあらなむ

前大僧正行尊（さきのだいそうじょう）66　もろともにあはれと思へ山桜　花よりほかに知る人もなし

前大僧正慈円（さきのだいそうじょう）95　おほけなくうき世の民におほふかな　わが立つ杣に墨染の袖

左京太夫顕輔（さきょうだゆうあきすけ）79　秋風にたなびく雲の絶え間より　もれ出づる月の影のさやけさ

左京太夫道雅（さきょうだゆうみちまさ）63　今はただ思ひ絶えなむとばかりを　人づてならで言ふよしもがな

貞信公（さだのぶこう）26　小倉山峰のもみぢ葉心あらば　今ひとたびのみゆき待たなむ

猿丸太夫（さるまるだゆう）5　おく山に紅葉ふみわけなく鹿の　声きく時ぞ秋はかなしき

参議篁（さんぎたかむら）11　わたの原八十島かけて漕ぎ出でぬと　人にはつげよあまのつり舟

参議等（さんぎひとし）39　浅茅生のをののしの原しのぶれど　あまりてなどか人の恋しき

参議雅経（さんぎまさつね）94　みよし野の山の秋風小夜ふけて　ふるさと寒く衣うつなり

三条院（さんじょういん）68　心にもあらでうき世にながらへば　恋しかるべき夜半の月かな

三条右大臣定方（さんじょううだいじん）25　名にしおはば逢坂山のさねかづら　人に知られでくるよしもがな

慈円（じえん）95　おほけなくうき世の民におほふかな　わが立つ杣に墨染の袖

式子内親王（しきしないしんのう）9　玉の緒よ絶なば絶えねながらへば　忍ぶることのよわりもぞする

持統天皇（じとうてんのう）2　春過ぎて夏来にけらし白妙の　衣ほすてふ天の香具山

寂蓮法師（じゃくれんほうし）87　むらさめの露もまだひぬまきの葉に　霧立のぼる秋の夕暮

従三位家隆（じゅうさんみいえたか）98　風そよぐならの小川の夕暮は　みそぎぞ夏のしるしなりける

俊恵法師（しゅんえほうし）85　夜もすがらもの思ふ頃は明けやらで　ねやのひまさへつれなかりけり

順徳院（じゅんとくいん）100　百敷や古き軒端のしのぶにも　なほあまりある昔なりけり

周防内侍（すおうのないし）67　春の夜の夢ばかりなる手枕に　かひなく立たむ名こそ惜しけれ

菅原道真（すがわらのみちざね）24　このたびは幣も取りあへず手向山　紅葉のにしき神のまにまに

崇徳院（すとくいん）77　瀬をはやみ岩にせかるる滝川の　われても末に逢はむとぞ思ふ

清少納言（せいしょうなごん）62　夜をこめて鳥のそら音ははかるとも　世に逢坂の関はゆるさじ

蝉丸（せみまる）10　これやこの往くもかへるも別れては　知るも知らぬも逢坂の関

僧正遍照（そうじょうへんじょう）12　天津風雲の通ひ路吹きとぢよ　をとめの姿しばしとどめむ

素性法師（そせいほうし）21　今来むといひしばかりに長月の　有明の月を待ち出でつるかな

曽根好忠（そねのよしただ）46　由良のとをわたる舟人かぢをたえ　行く方も知らぬ恋の道かな

待賢門院堀川（たいけんもんいんほりかわ）80　ながからむ心も知らず黒髪の　乱れて今朝はものをこそ思へ

大僧正行尊（だいそうじょうぎょうそん）66　もろともにあはれと思へ山桜　花よりほかに知る人もなし

大納言公任（だいなごんきんとう）55　滝の音は絶えて久しくなりぬれど　名こそ流れてなほ聞えけれ

大納言経信（だいなごんつねのぶ）71　夕されば門田の稲葉おとづれて　芦のまろやに秋風ぞ吹く

大弐三位（だいにのさんみ）58　有馬山猪名のささ原風吹けば　いでそよ人を忘れやはする

平兼盛（たいらのかねもり）40　しのぶれど色に出でにけりわが恋は　ものや思ふと人の問ふまで

持統天皇（ぢとうてんのう）2　春過ぎて夏来にけらし白妙の　衣ほすてふ天の香具山

中納言朝忠（ちゅうなごんあさただ）44　逢ふことの絶えてしなくはなかなかに　人をも身をも恨みざらまし

中納言敦忠（ちゅうなごんあつただ）43　逢ひ見ての後の心にくらぶれば　昔はものを思はざりけり

中納言兼輔（ちゅうなごんかねすけ）27　みかの原わきて流るる泉川 　いつみきとてか恋しかるらむ

中納言家持（ちゅうなごんやかもち）6　かささぎのわたせる橋におく霜の　白きを見れば夜ぞふけにける

中納言行平（ちゅうなごんゆきひら）16　立ち別れいなばの山の峰に生ふる　まつとしきかば今かへり来む

天智天皇（てんぢてんのう）1　秋の田のかりほの庵のとまをあらみ　我がころも手は露にぬれつつ

道因法師（どういんほうし）82　思ひわびさても命はあるものを　憂きに堪へぬは涙なりけり

二条院讃岐（にじょういんさぬき）92　わが袖は潮干にみえぬ沖の石の　人こそ知らね乾く間もなし

入道前太政大臣公経（にゅうどうきんつね）96　花さそふあらしの庭の雪ならで　ふりゆくものは我が身なりけり

能因法師（のういんほうし）69　あらし吹く三室の山のもみぢ葉は　龍田の川のにしきなりけり

春道列樹（はるみちのつらき）32　山川に風のかけたるしがらみは　流れもあへぬもみぢなりけり

藤原顕輔（ふじわらのあきすけ）79　秋風にたなびく雲の絶え間より　もれ出づる月の影のさやけさ

藤原朝忠（ふじわらのあさただ）44　逢ふことの絶えてしなくはなかなかに　人をも身をも恨みざらまし

藤原敦忠（ふじわらのあつただ）43　逢ひ見ての後の心にくらぶれば　昔はものを思はざりけり

藤原家隆（ふじわらのいえたか）98　風そよぐならの小川の夕暮は　みそぎぞ夏のしるしなりける

藤原興風（ふじわらのおきかぜ）34　誰をかも知る人にせむ高砂の　松もむかしの友ならなくに

藤原兼輔（ふじわらのかねすけ）27　みかの原わきて流るる泉川 　いつみきとてか恋しかるらむ

藤原清輔（ふじわらのきよすけ）84　ながらへばまたこの頃やしのばれむ　憂しと見し世ぞ今は恋しき

藤原公任（ふじわらのきんとう）55　滝の音は絶えて久しくなりぬれど　名こそ流れてなほ聞えけれ

藤原伊尹（ふじわらのこれただ）45　あはれともいふべき人は思ほえで　身のいたづらになりぬべきかな

藤原定方（ふじわらのさだかた）25　名にしおはば逢坂山のさねかづら　人に知られでくるよしもがな

藤原忠平貞信（ふじわらのただひら）26　小倉山峰のもみぢ葉心あらば　今ひとたびのみゆき待たなむ

藤原定頼（ふじわらのさだより）64　朝ぼらけ宇治の川霧たえだえに　あらはれわたる瀬々の網代木

藤原実方（ふじわらのさねかた）51　かくとだにえやは伊吹のさしも草　さしも知らじな燃ゆる思ひを

藤原実定（ふじわらのさねさだ）81　ほととぎす鳴きつる方を眺むれば　ただ有明の月ぞのこれる

藤原俊成（ふじわらのしゅんぜい）83　世の中よ道こそなけれ思ひ入る　山の奥にも鹿ぞ鳴くなる

藤原忠平貞信公（ふじわらのただひら）26　小倉山峰のもみぢ葉心あらば　今ひとたびのみゆき待たなむ

藤原忠通（ふじわらのただみち）76　わたの原漕ぎ出でて見れば久かたの　雲ゐにまがふ沖つ白波

藤原定家（ふじわらのていか）97　来ぬ人をまつほの浦の夕なぎに　焼くや藻塩の身もこがれつつ

藤原敏行（ふじわらのとしゆき）18　住の江の岸による波よるさへや　夢の通ひ路人目よくらむ

藤原雅経（ふじわらのまさつね）94　みよし野の山の秋風小夜ふけて　ふるさと寒く衣うつなり

藤原道信（ふじわらのみちのぶ）52　明けぬれば暮るるものとは知りながら　なほ恨めしきあさぼらけかな

藤原道雅（ふじわらのみちまさ）63　今はただ思ひ絶えなむとばかりを　人づてならで言ふよしもがな

藤原基俊（ふじわらのもととし）75　契りおきしさせもが露を命にて　あはれ今年の秋も去ぬめり

藤原義孝（ふじわらのよしたか）50　君がため惜しからざりし命さへ　ながくもがなと思ひけるかな

藤原良経（ふじわらよしつね）91　きりぎりす鳴くや霜夜のさむしろに　衣かたしきひとりかも寝む

文屋朝康（ふんやのあさやす）37　白露に風の吹きしく秋の野は　つらぬきとめぬ玉ぞ散りける

文屋康秀（ふんやのやすひで）22　吹くからに秋の草木のしをるれば　むべ山風をあらしといふらむ

法性寺忠通（ほっしょうじただみち）76　わたの原漕ぎ出でて見れば久かたの　雲ゐにまがふ沖つ白波

道綱母（みちつなのはは）53　歎きつつひとりぬる夜の明くる間は　いかに久しきものとかは知る

壬生忠見（みぶのただみ）41　恋すてふわが名はまだき立ちにけり　人知れずこそ思ひそめしか

源兼昌（みなもとのかねまさ）78　淡路島通ふ千鳥の鳴く声に　幾夜ねざめぬ須磨の関守

源実朝（みなもとのさねとも）93　世の中は常にもがもな渚こぐ　あまの小舟の綱手かなしも

源重之（みなもとのしげゆき）48　風をいたみ岩うつ波のおのれのみ　砕けてものを思ふころかな

源経信（みなもとのつねのぶ）71　夕されば門田の稲葉おとづれて　芦のまろやに秋風ぞ吹く

源融 河原左大臣（みなもとのとおる）14　陸奥のしのぶもぢずり誰ゆゑに　乱れそめにしわれならなくに

源俊頼（みなもとのとりよし）74　うかりける人を初瀬の山おろしよ　はげしかれとは祈らぬものを

源等（みなもとのひとし）39　浅茅生のをののしの原しのぶれど　あまりてなどか人の恋しき

源宗于（みなもとのむねゆき）28　山里は冬ぞさびしさまさりける　人めも草もかれぬと思へば

壬生忠見（みぶのただみ）41　恋すてふわが名はまだき立ちにけり　人知れずこそ思ひそめしか

壬生忠岑（みぶのただみね）30　有明のつれなく見えし別れより　暁ばかりうきものはなし

紫式部（むらさきしきぶ）57　巡りあひて見しやそれともわかぬ間に　雲がくれにし夜半の月かな

元良親王（もとよししんのう）20　わびぬれば今はた同じ難波なる　身をつくしても逢はむとぞ思ふ

山辺赤人（やまべのあかひと）4　田子の浦にうちいでて見れば白妙の　富士の高嶺に雪はふりつつ

祐子内親王紀伊（ゆうしないしんのう）72　音にきく高師の浜のあだ波は　かけじや袖の濡れもこそすれ

恵慶法師（ゑけいほうし）47　八重むぐらしげれる宿のさびしきに　人こそ見えね秋はきにけり

陽成院（ようぜいいん）13　 つくばねの峰よりおつるみなの川　恋ぞつもりて淵となりぬる

良暹法師（りょうぜんほうし）70　寂しさに宿を立ち出でてながむれば　いづこもおなじ秋の夕暮

108

國芳／通俗・水滸傳豪傑百八人…（五十音）人名の後の番号は百八星の席次（深い意味はない）

豪傑の総てが描かれている訳ではない。また同一の豪傑が別図、また続き絵で描かれていることもある。百八星の席次（番号）は単に番号。水滸伝の人物は［渾名＋姓名］。かなり読み難い、字体がない文字もある。ここでは五十音順に配列した。

いちじょうせいこさんじょう 扈三娘一丈青059　\*正しくは「一丈青扈三娘」

いっしかさいけい 一枝花 蔡慶095

うんりこんごうそうまん 雲裏金剛 宋万082

かおしょうろちしん 花和尚魯智深　初名魯達 013

かがんしゅんげいとうひ 火眼ｼｭﾝ猊 ﾄｳ飛　犬+俊の旁 049

かくびんばおうていろく 霍閔婆王定六104

かこうこきょうおう 花項虎 ｷｮｳ旺　龍+共078

かつえんらげんしょうしち 活閻羅阮小七031

かんちこつりつしゅき 旱地忽律朱貴092

きゅうせんぽうさくちょう 急先鋒索超019

きゅうびきとうそうおう 九尾亀 陶宗旺075

ぎょくきりんろしゅんぎ 玉麒麟 廬俊義002

ぎょくはんかんもうこう 玉旙竿 孟庚070

ぎょくひしょうきんだいけん 玉臂匠 金大堅066

きれんじとこう 鬼臉児 杜興089

きんがんひょうせおん 金眼彪 施恩085

きんせんひょうしとうりゅう 金銭豹子湯隆088

きんそうしゅじょねい 金ｿｳ手 徐寧　金+倉 018

きんひょうしようりん 錦豹子楊林051

きんもうけんだんけいじゅう 金毛狗段景住108

きんもうこえんじゅん 錦毛虎 燕順050

くもんりゅうししんA 九紋龍史進023A

くもんりゅうししんB 九紋龍史進023B

くもんりゅうししんC 九紋龍史進023C

けんどうしんいくほうし 険道神 郁保四105

ごうてんらいりょうしん 轟天雷凌振052

こくせんぷうりき 黒旋風李逵022

こじょうそうじせん 鼓上ｿｳ 時遷　白+匕107

こほうぎそうこう 呼保義 宋江001

こんこうりゅうりしゅん 混江龍李俊026

こんせいまおうはんずい 混世魔王樊瑞061

さいえんしちょうせい 菜園子張青102

さいじんきかくせい 賽仁貴郭盛055

さいめいはんがんりりつ 催命判官 李立096

しぜんはくこうほたん 紫髯伯 皇甫端057

しゃめいさぶろうせきしゅう 捨命三郎石秀033

しゅうぐんばせんさん 醜郡馬宣賛040

じゅうんりゅうこうそんしょう 入雲竜公孫勝004

しゅつどうこうどうい 出洞蛟 童威068

しゅつりんりゅうすうえん 出林竜雛淵090

しょううつちそんしん 小尉遅 孫新100

しょうおんこうりょほう 小温侯呂方054

しょうしゃらんぼくしゅん 小遮攬穆春080

しょうせんぷうさいしん 小旋風 柴進010

しょうはおうしゅうつう 小覇王 周通087

しょうめんこしゅふ 笑面虎 朱富093

しょうりこうかえい 小李広花栄009

しんいあんどうぜん 神醫安道全056

しんかしょうぎていこく 神火将 魏定国045

しんきぐんししゅぶA 神機軍師朱武037A

しんきぐんししゅぶB 神機軍師朱武037B

しんこうたいほうたいそう 神行太保戴宗020

しんさんししょうけい 神算子 蒋敬053

せいがけんのさんぶしょう 清河縣之産武松014

せいがんこりうん 青眼虎 李雲097

せいしゅしょせいしょうじょう 聖手書生蕭譲046

せいすいしょうたんていけい 聖水将 単廷珪044

せいぼくかんかくしぶん　 井木扞赦思文　赫？041

せいめんじゅうようし 青面獣楊志017

せきしょうぐんせきゆう 石将軍石勇099

せきはつきりゅうとう 赤髪鬼劉唐021

せんかじちょうおう 舩火児張黄028

そうこかつかいほう 双虎蝎 解宝035

そうしこらいおう 挿翅虎 雷横025

そうそうしょうとうへい 双鎗将 董平015

そうとうきそうせい 操刀鬼 曹正081

そうべんこえんしゃく 双鞭 呼延灼008

そうもんしんほうきょく 喪門神 鮑旭060

だいとうかんしょう 大刀関勝005

だこしょうりちゅう 打虎将李忠086

たんめいじろうげんしょうごA 短命二郎 阮小五029A

たんめいじろうげんしょうごB 短命二郎阮小五029B

ちたせいごよう 智多星呉用003

ちゅうせんこていとくそん 中箭虎丁淂孫079

ちょうかんこちんたつA 跳澗虎陳達072A

ちょうかんこちんたつB 跳澗虎陳達072B

ちんさんざんこうしん 鎮三山黄信038

つうひえんこうけん 通臂猿 侯健071

てっきょうしらくわ 鉄叫子 楽和077

てつせんしそうせい 鉄扇子 宋清076

てつてきせんばりん 鉄笛仙馬麟067

てつぴはくさいふく 鉄臂膊 蔡福094

てつめんこうもくはいせん 鉄面孔目 裴宣047

てんもくしょうほうき 天目将彭玘　 彭キ　043

どくかくりゅうすうじゅん 獨角龍雛潤091

どくかせいこうりょう 獨火星孔亮063

はくかじゃようしゅん 白花蛇楊春073

はくじつそはくしょう 白日鼠白勝106

はくめんろうくんていてんじゅ 白面郎君鄭天寿074

はっぴなたこうじゅう 八臂那ﾀ 項充　ロ+屯064

びぜんこうしゅどう 美髯公朱仝012

ひてんたいせいりこん 飛天大聖李袞065

ひゃくせんしょうかんえん 百勝将 韓滔042

びょううつちそんりつ 病尉遅孫立039

びょうかんさくようゆう 病関索楊雄032

ひょうしとうりんちゅう 豹子頭 林冲006

びょうだいちゅうせつえい 病大虫 薛永084

へきれきかしんめい 霹靂火秦明007

ぼくてんほうりおう 撲天鵬李應011

ぼだいちゅうこだいそう 母大虫顧大嫂101

ぼつうぜんちょうせい 没羽箭張清016

ぼっしゃらんぼくこう 没遮攬穆弘024

ぼつめんもくしょうてい 没面目焦挺098

ぼやしゃそんじじょう 母夜叉孫二娘103

ほんこうしんどうもう 翻江蜃 童猛069

まうんきんしおうほう 摩雲金翅欧鵬048

もうとうせいこうめい 毛頭星孔明062

もちゃくてんとせん 摸着天杜杜遷083

りっちたいさいげんしょうじ 立地太歳阮小二027

りょうとうじゃかいちん 両頭蛇解珍034

ろうしえんせいA 浪子燕青036A

ろうしえんせいB 浪子燕青036B

ろうりはくちょうちょうじゅん 浪裏白跳張順030

わいきゃくこおうえい 矮脚虎王英058